

H30 年度 学校教育自己診断結果分析・考察

(1) 回収数

【保護者】	781	【1年	259	2年	272	3年	250】
【生徒】	1000	【1年	317	2年	347	3年	336】
【教員】	50						

(2) 分析・考察

(1) 保護者からの評価については良好である。

(2) 生徒からの評価については、年々厳しくなっている。

☞ 72期（2年）については、生徒のニーズを把握した上での改善が必要であると考えます。

(3) 学校行事の満足度について、生徒評価が下がった。

☞ 生徒が一丸となって行事に参加していると感じられる取組みを行うなど、生徒のニーズを把握した上で取組んでいく必要があると考えます。

(4) 読書活動については、授業とのかかわりの中で推進させるなどのさらなる工夫が必要である。

(5) 今年度、教育相談体制が充実したが生徒の評価につながっていない。

☞ 生徒への広報環境など、気軽に相談できるように方策を考えていく必要がある。

(6) 生徒の授業に対する姿勢と満足度については、生徒だけでなく教員も下降している。また、保護者についても肯定評価が低い状態が続いている。

☞ 教科会議などを中心に、さらなる授業の充実に向けて議論を深める必要があると考えます。

【まとめ】

◎ 教員アンケートにおいて、「教育活動に関する日頃の教員間のコミュニケーション（質問17）」「教育活動評価の次年度への活用（質問18）」の低さが気になります。

日々の教育活動においては、いわゆる『例年通り』『前年踏襲』という考え方を『是』とせず、常に“生徒の現状”と“将来を見据えた指導”を踏まえたうえで取組んでいく必要があると考えます。